

小特集「国際会議で見つけたオススメ論文」にあたって

高間 康史

(首都大学東京)

相澤 彰子

(国立情報学研究所, 総合研究大学院大学)

堤 富士雄

((財)電力中央研究所))

本特集は、人工知能学会会員と関連の深い下記五つの国際会議に関する文献紹介を集めたものである。

- PRICAI2006 (2006/8/7-11, Guilin, China)
- PKDD2006 (2006/9/18-22, Berlin, Germany)
- ISWC2006 (2006/11/5-9, Athens, GA, USA)
- WI2006 (2006/12/18-22, Hong Kong)
- ICDM2006 (2006/12/18-22, Hong Kong)

Web やオンラインジャーナルなどの普及により、学術文献の入手は非常に容易となっている。このような時代において、会誌で文献紹介を行う意義は何であろうか。単に論文の概要を紹介するだけであれば、たいいてい無料で公開されているアブストラクトを読めば事足りてしまうため、文献紹介の必要性はないだろう。

しかし、学際的、分野横断的な研究が広く行われるようになった現在、専門外の文献を調査する機会も増えてきている。また、最新の研究分野では、全体像を体系的に捉えた教科書的な書物の登場を待ってられない場合も多い。このような場合、入手可能な膨大な量の文献の中から、読む価値ある文献を選ぶこと、あるいは該当分野における論文の位置づけ、価値を正しく把握することは非常に困難であり、その分野に詳しい研究者のアドバイスが助けとなることが多い。

そこで、該当分野で活躍中の研究者が「オススメ論文」を紹介する、というコンセプトに基づき、論文の単なる概要説明ではなく、その背後にある研究分野のトレンドや雰囲気などを伝える文献紹介により、学会員にとって有益な情報を提供したいと考え、本特集を企画した。

執筆を依頼するにあたり、各紹介者には以下のお願いをした。

- 文献内容の紹介を中心に、その論文を選んだ理由、内容を理解するうえで有用な情報(補足やうんちく、参考文献など)を積極的に紹介する。
- 論文の単なる翻訳ではなく、紹介者の考えに基づいて課題や切り口のおもしろさ、問題の難しさなどを

解説する。

- 論文のもたらしたインパクトや論文の意義、ほかの論文との違いなどに言及する。

前述の各国際会議について、該当分野で活躍されている研究者に論文の選択・執筆をお願いした。PRICAI2006については大原氏に執筆を依頼し、Web ページのサブトピックを考慮した検索拡張手法に関する論文について、関連研究との比較なども含めてわかりやすく紹介していただいた。PKDD2006 をご担当いただいた井手氏の記事は、拘束付きクラスタリングの創始者である Kiri Wagstaff の論文について、セッション会場の雰囲気も伝わってくるような紹介内容となっている。ISWC2006 については2名の方に執筆をお願いした。森氏は SPARQL について、基礎的部分を論じた論文と応用に関する論文の2編を取り上げ、その研究動向の概観について紹介している。松尾氏は PubMed からのエンティティ間の関係抽出に関する論文の紹介を通じて、セマンティック Web 研究の一つの方向性について論じている。WI2006 について執筆をお願いした松村氏は、Web2.0 ブームで中心的話題の一つである共同編集を取り上げ、ウィキペディアの記事のクオリティと執筆者・編集者のオーソリティを求めるモデルを提案している論文について紹介している。ICDM2006 をご担当いただいた津本氏による紹介記事は、犯罪記録データベースを対象としたデータマイニングに関する論文を取り上げ、データマイニング研究の新しい方向性についても論じた力作である。

従来の単純な文献紹介よりもはるかに面倒なお願いであったと思うが、非常に読み応えのある文献紹介を集めることができた。執筆を快く引き受けてくださった紹介者の皆様にこの場を借りて謝意を表す。また、連載記事としての文献紹介も、今年の1月号から連載を再開しており、本小特集と同様の趣旨で執筆をお願いしている。こちらもぜひご覧いただきたい。